



造成中のころの早通団地

昭和二十七年の都市計画に先行する昭和十八年の「葛塚都市計画区域」決定は、新潟・新発田・水原について早い時期のものであったが、そのような早期の都市計

豊栄の都市計画 その二



(20)

画決定の要因には、昭和十年に決定された白新線の工事が進み、葛塚駅敷地ができたことに加えて、いまひとつの要因があったことが分かった。

それは、ガラス繊維を製造する軍需工場の日東紡績を葛塚町に誘致する計画があったことである。成功していれば誘致企業の第一号であった。実際には新潟市の内野へ奪われてしまった。

昭和二十七年の都市計画についても、むしろ旗のぼるほどの反対運動があったことが分かり驚いている。それは合併時の第一回市長選の争点にもなったほどである。興味深いことは、当選した三林宏作町長が「土地区画整理反対」派から推された候補だったことである。反対者は地主六十人中の三分の二以上にのぼったという。

反対派の理由には「長年の汗の結晶たる農地への絶対的愛着」と「組合施行方式による販売組合的性格」への反対が主なものであった。これに代って町施行によることになり、各地区から選出された二名ずつの委員会が設けられて進めら

れることになったという。したがってこのあたりはまだ興味深い問題が残されており、当時の関係者から多くを語っていただくことになりそうである。

また早通の団地造成についても興味深い事実がつかめた。団地造成のきっかけは、合併促進法に基づいて三十四・五年に早通小学校の全面改築が約束されていたが、人口の減少が続ぎ生徒数も百人くらいに減ってしまい複式授業のおそれも出てきたので、人口・生徒増加策を地元から陳情され住宅地造りが考えられたとのことである。したがって当初県からの猛烈な反対があったのも当然のことであった。折りしも中央から派遣されてきた新しい課長による積極的姿勢の評価「新しいまち一つを作る覚悟の有無」によってハンコが得られたという。しかし実際には新潟地震が起きるまで、土地が売れずに困ったとのこと。こうして早通団地の基礎ができた。やっぱり大変な御苦労があった。

市史編さん員、高津斌彰

表紙のことば

「近くなので、子供を連れてよく来るんですよ」と米山初栄さん(相生町)。

稲荷神社境内の木陰に設けられた氷水屋さんには、涼しさを求める人が夜も訪れています。

編集室

▽ 紙面の都合でやむを得ず割愛した原稿を、編集室では「ボツ(没)」と言っています。今月は残念ながらこのボツがいくつかありました。

▽ 毎月一応の編集計画をたてるのですが、予定したものが場合によって取材できなかったり、逆に予定外の情報が飛び込んだり、逆ることが少なくありません。

▽ 決められた頁数の中に、原稿や写真がちよと収まることはまれで、大抵は余るか足りないかのどっちかです。折角取材にご協力をいただきながら、やむなく「ボツ」にした事情をお察しのうえご了承願います。



星空の下の映写会

交通事故の防止をねらった恒例の夜間映写会には、涼みがてらの親子が大勢。今年も交通安全指導隊員が中心になって市内33か所で開催されます。(7月31日、朝日町のしらかば公園で)



上大口サービス店会が、市役所駐車場で開いた特設の朝市。食料品・日用雑貨、衣類などが並び、目玉商品は飛ぶように売れていました。(7月29日)



猛暑の中で機敏な訓練

消防団員と消防署員合わせて約370人が参加した市の総合消防演習。うだるような暑さの中で機敏な訓練を繰り広げ、子供たちも熱心に見学していました。(7月22日)



一本から五二個の花

1本のとっぼうゆりから白いラッパ形の花がなんと52。浦木の曾我敏夫さんが5年程前に畑に植えたもので、土地柄が性に合ったのか年々花の数が増えてくるそうです。